

## MCR、ここだけの話

医療疫学分野 森勇人

私は医療疫学分野に所属する専門職学位過程1年生の森 勇人と申します。救急科専門医、外科専門医として働きながら京都大学 SPH(School of Public Health; 公衆衛生大学院)に入学し、MCR(Master of Clinical Research; 臨床研究者養成)コースで臨床研究を学んでいます。MCR コースは、医師を対象とした、臨床研究を行う上で必要となる理論を体系的に学べるよう組まれた1年間のコースになります。

京都大学 SPH/MCR コースとの出会いは、福島県で行われている臨床研究デザイン塾への参加でした。2泊3日温泉宿に泊まりこみ、研究デザインを仲間と語り合い、臨床研究の魅力に引き込まれたことを今でも記憶しています。そこで、所属教室の前任教授である福原俊一先生から SPH/MCR コースの紹介を受けました。専門医取得のタイミング、職場との調整、新型コロナウイルスの流行などが重なり、医師14年目での入学となりました。

SPH に進むにはいくつかのパターンがあり、やや複雑です。①1年制の MPH(専門職学位課程)・MCR 専科生、②2年制の MPH、③DrPH(社会健康医学系専攻博士課程・3年)、④ PhD(医学専攻博士課程・4年)の4パターンがあります。私は2年制の MPH を選択しましたがその理由は、1年目は授業が多く1年のみでは消化不良になること、また PhD は常勤の仕事につけないこと、DrPH は MPH より倍率が高いことを伺ったためです。MCR コースは、専科生はもちろん他の課程からも受講することができます。私が入学した年の参加者は、MCR 専科生と2年制の MPH の所属が全体の2割強でした。受講生の多くは卒後10年目前後で、SPH に入学した多くの医師が選択していました。

試験について話しておく、特に英語の外部試験(TOEIC もしくは TOEFL)のスコアが必要になるので、その勉強と出願までに受験できるタイミングは前もって逆算しておくことを強くお勧めします(最新の試験要項はホームページを参照してください)。オープンキャンパス、志望教室の教授面談から出願までは、あまり時間がなく慌しいです。私は英語の外部試験のスコアの提出が出願までに間に合うのか、かなり肝を冷やしました。

MCR コースの授業内容は多岐に渡り、疫学、医療統計学、文献検索・評価法といったものはもちろんのこと、系統的レビュー、診療ガイドライン、臨床試験の計画、臨床医療の経済評価、社会疫学、データ解析、研究費申請方法などを受講(この中の一部は MCR コースを選択していないと受講できない科目もあります)することができます。さらに、MCR コースの一番の特徴と言えるのが、研究プロトコルの発表会(通称プロマネ)になります。自分の臨床疑問、そ

の背景、研究デザイン、解析手法、考察について他分野の医師にも伝わるようにスライドを作成し、十数人の教員の先生方と同期の前で発表し、質疑応答を行います。緊張する時間ではありますが、自身の研究デザインについて権威ある先生方から直接アドバイスを受けられるのは、大変貴重で有意義なものでした。

授業に関して少し触れておくと、コロナ禍ということもあり半分以上がオンラインで行われました。オンライン授業でも講義内容は単調なものではなく、趣向が凝らされています。多くはグループでのディスカッションやグループワークでの発表がありました。さらに、SPH には医療職のみならず様々なバックグラウンドを持ったメンバーが在籍しており、一緒にディスカッションできたことは自分にとって新しい視点を得ることができ、とても学びの深い時間になりました。

私生活について、金銭面ではアルバイトが禁止されている訳ではないものの、前期は多忙(履修科目数にもよりますが、必修科目が前期に集中しており課題の提出に追われます)なのであまり現実的ではないと思います。後期は、授業をそれほど履修しなければ、時間的には余裕ができると思います。

子育てに関して、京都に移住してきた時は子どもが4ヶ月とまだ小さく、前期は夜泣きで寝不足の毎日でした。仕事をしている時は夜間の緊急手術も多かったのですが、今は規則正しい生活なのでほぼ毎日、晩ご飯やお風呂の時間を一緒に過ごせています。また、2年目に向けて子どもの保育園を探した際に、京都の保育料が高く驚かされました。

大学院生の大きなメリットの一つは学割が使えることです。新幹線はもちろんのこと、MACユーザーなら Mac book や iPad を、さらに Endnote や STATA といった高額ソフトを安価に購入することができます。また、週末には子どもを連れて、動物園や鉄道博物館に学割料金で入館できるのも地味に助かっています。

入学からの一年を振り返ると、濃密な時間の中で着実な成長を感じています。おそらく、臨床の最前線を離れて、新しい環境に足を踏み出すのは不安を感じることも少なからずあると思います。しかし、京都大学 SPH/MCR コースを人生のキャリアの選択肢の一つにぜひ考えてみてください。実りのある経験、さらには素晴らしい人脈を築く未来がきっと待っています。